

教学设计

中学向け：ファストフードを食べたことがありますか？

言語学習目的：

- ファストフードの名前を知る。
- 清濁音の区別や、特殊音（撥音、拗音、長音）の聞き取りができるようになる。

文型：～たことがある、～することができる、～たいです

語彙：牛丼、天丼、おにぎり、カレーライス、うどん、そば、ラーメン

言語以外の学習目的：

- 日本のファストフード事情を知ることを通じて、日本に根づいている外国文化を知る。

- 中国のファストフードについて考える。

使用時間：50分

用意するもの：『今日日本』付録、ファストフードの写真（雑誌やインターネットからできるだけ大きなものを入手する*）

*入手できない場合はTJF ひだまり編集部にご連絡ください。お送りします。

『日語』で関連のある課：義務教育『日語』（人民教育出版社）8年級上冊第5課（うちに遊びに来ませんか）、8年級上冊第1課（どんなスポーツが好きですか）、9年級下冊第4課（盲導犬を育てた人）

□ 事前準備

ワークシート（付録）を学生の数だけコピーしておく。

□ 授業の進め方

1. 導入

次の質問をしてファストフードの話題を導入する。質問は中国語でよい。

発話例

- みなさん、よく外食しますか。最近は、どんなものを食べましたか。
- ファストフードを食べたことがある人はいますか。何を食べましたか。
- あなたはどんなファストフードが好きですか。

2. 発音の聞き取り

(1) 知っている日本のファストフードを列挙させる。中国語でよい。

発話例

- 今日はファストフードについて勉強します。日本にもたくさんのファストフードがあります。どんなものがあるか知っていますか。

ヒント

ファストフードとは、注文して短時間で出てくる料理のこと。今号で紹介している料理は最近、ファストフードとしても食べられるようになったということをしっかりおさえておく。

(2) 次のように言い、聞き取りの指示をする。

発話例

- では、これから、日本のファストフード店で食べられる料理の名前を日本語で言います。ノートに聞いた言葉をひらがなで書いてください。答えは1番からたてにひとつずつ書いてください。

答案

1. ぎゅうどん① 2. てんぷら① 3. てんどん① 4. おにぎり② 5. カレーライス④ 6. うどん① 7. そば① 8. ラーメン① 9. やきそば①

ヒント

- 1～9を読み上げる前に、5の「カレーライス」と8の「ラーメン」はカタカナで書くことを言うておく。また、答えをたてに書くのは、あとから横に書き込みができるようにするため。
- まだ学習していない語彙を聞き取るのは難しい。ここでは正しくかけなくてもかまわない。次の活動で、この言葉はこういう意味だということを理解し、この語彙に興味をもつようになればいい。
- 自分の発音に自信がなければ、カードを使ってもいい。例えば、9つの単語と絵カードを同時に見せてもいい。

(3) 答え合わせをする。

ヒント

50分で活動をすべて行うためには、この活動はあまり時間をかけられない。できた生徒にすぐに前に来て書いてもらうか、黒板に書く学生をあらかじめ決めておき、ノートの書き取りと黒板の書き取りを同時進行で行うと時間が短縮できる。

3. 日本のファストフードについての理解を深める

(1) 2で聞き取った1～9について、中国語で何と言うかどんな料理か写真を見せながら確認する。知っている学生がいれば説明させ、足りない部分を教師が『今日日本』を参考にして補う。

答案

1. ぎゅうどん（牛丼） 2. 牛肉盖饭 3. てんぷら（天婦羅） 4. てんどん（天丼） 5. おにぎり 6. カレーライス 7. うどん 8. そば（蕎麦） 9. ラーメン 10. やきそば（焼きそば）

ヒント

授業後、『今日日本』を教室にはるので、ここでは『今日日本』に書いてあることを詳しく言う必要はない。牛丼、天ぷら、カレーライス、うどん、ラーメンなど外国から伝わった食文化が、今や日本の文化として根づいていることにも留意したい。

(2) いくつか簡単な質問を日本語でし、できるだけ日本語で答えさせる。ここで、「～たことがある」「～られる」「～たいです」を提示して、答えるときに使うように指示する。

発話例

- この中で、どれか食べたことがありますか。
- 私たちの町では、どれが食べられますか。どれが食べられませんか。
- もし、日本へ行ったら、どのファストフードが食べたいですか。

4. ファストフードについて話す

(1) まず、クラスを3～4人のグループに分けて、各グループにワークシートを配付し、以下のことについて話し合う。記録係、発表係を決め、記録係はワークシートに書き込む。中国語でよい。

発話例

- ファストフードとはどういう食品のことをいいますか。グループで定義して下さい。
- 中国にはどんなファストフードがありますか。それはほかの国からきましたか。中国でできましたか。

- ファストフード店を開くなら、どんな店にしますか。グループでひとつ考えてください。
 - ・何料理の店ですか。
 - ・どんなメニューを用意しますか。オリジナルメニューも考えてみましょう。
 - ・たくさん売れるために、どんな工夫をしますか。
 - ・店の名前はなににしますか。

ヒント

時間があったら、ファストフードの絵もかいてみる。

- (2) グループごとに発表してもらおう。

宿題

教師は授業後、『今日日本』を教室にはり、宿題（付録のワークシート2）の指示を出す。

発話例

- 「今日日本」を読んで、ワークシートに記入してください。できたら、次の授業で提出してください。

高校向け：ファストフードについて考えよう

言語学習目的：

- ファストフードについて、日本語で簡単に説明できるようになる。

文型：連体修飾語、～たほうがいいと思う、(なぜなら)～からです

語彙：牛丼、天ぷら、天丼、おにぎり、カレーライス、うどん、そば、ラーメン、焼きそば、料理に関する語彙（付録参照）

言語以外の学習目的：

- 日中のファストフードについて知り、食文化の多様性に気づく。
- オリジナルのファストフードを考えることで、想像力を養う。

- 食育や個食について書かれたものを読み、自分の食生活についてもふりかえる。

- 日本のファストフード事情を知ることを通じて、日本に根づいている外国文化を知る。

使用時間：50分

用意するもの：「今日日本」、ワークシート（付録）、読解文（付録）

📖『日語』で関連のある課：義務教育『日語』（人民教育出版社）7年級下冊第2課会話（携帯電話）

事前準備

1. 授業の1週間ぐらい前から『今日日本』のページを教室の壁に張っておく。
2. ワークシートを生徒の人数分コピーし、1人に1枚配り、授業までに日本語で書き込んでおくよう指示する。

授業の進め方

1. 導入

次のような発話をして、ワークシートの答え合わせをする。

発話例

- 今日はファストフードについて勉強します。「今日日本」を読みましたか。ファストフードについてどんなことがわかりましたか。

答案

1. 注文してから短時間で出てくる 2. 牛丼、天丼、おにぎり、カレーライス、ラーメン、そば、うどん、焼きそばなど 3. てんや→天丼 松屋→牛丼 CoCo 壱番館→カレーライス おだむすび→おにぎり 4.A: カレーライス B: そば C: おにぎり D: ラーメン E: 焼きそば F: 天ぷら G: うどん H: 牛丼

2. 中国のファストフードについて考える

- (1) 中国にはどんなファストフードがあるか生徒に列挙させ、板書する。

発話例

- 中国にはどんなファストフードがありますか。
- (2) (1) で挙げられたファストフードの発祥について確認する。

発話例

- ○○は中国でできたものですか。ほかの国からきたものですか。

3. 中国のファストフードを説明する

- (1) 3、4人のグループに分けて、「日本人の友達に、中国のファストフードについて説明する」という設定で、2で出たファストフードの説明を考える。列挙されたファストフードが多い場合は、グループで分担を決める。

- (2) 事前学習で使ったワークシートの4の表現や文型を参考に、ファストフードの説明を話し合い、ノートにまとめる。

- (3) グループごとに発表する。教師は日本語の表現を適宜直す。

4. オリジナルのファストフードを考える

中国のファストフードや日本のファストフードをヒントに、グループでオリジナルのファストフードを考える。

発話例 日本」で勉強したファストフードを、中国風（民族風）にアレンジしましょう。

- どんなメニューにしますか。どんなサービスをしますか。

ヒント

生徒がイメージしにくいときは、教師が例を挙げる。例えば、ワンタンのスープをカレーにした「カレーワンタン」など。

発展：食生活について考える。

- (1) 読解文を読んで、各自で内容確認のワークシートに記入するよう指示する。

- (2) 答え合わせをする

答案

1. は、食について（正しい知識）を習得し、（正しい）食習慣を実践するための（教育のこと）です。2. ファストフード、スローフードとは、人と（コミュニケーション）をとりながら楽しむ、（ゆったりとした）食事を提唱するものです。 II.1. ○ 2. × 3. ○ 4. ○ 5. ○ III.1. 固食

2. 孤食 3. 個食

- (3) 食生活アンケートに答えさせ、自分の食生活を振り返らせる。

(4) 読解文の内容と自分の食生活の振り返りから、気づいたことを発表させる。

発話例

- 自分の食生活についてどう思いますか。気づけたほうが良いと思うことはありますか。

ヒント

ここで、「～たほうが良いと思います。なぜなら、～からです」などを使わせてもよい。

ヒント

教師がアンケートを回収、集計して、次の授業で集計結果を発表し、集計結果から気づいたことについて話し合せてよい。

執筆：津花知子(早稲田大学日本語教育研究センター、群馬大学留学生センターなどで講師を務める。1998～2000年、日本青年海外協力隊員日本語教師として瀋陽外国語学校に赴任)

食生活アンケート

あなた自身のことについて答えてください。

【昨日の食事について】

	朝	昼	夜
何を食べましたか。			
どのくらい時間をかけましたか。			
誰と食べましたか。			
どこで食べましたか。			

教法指針

今回のテーマは、「ファストフード」です。

中国の中学校高校で日本語を教えている先生方、ファストフードが好きですか。日頃からよくファストフードを食べますか。自分の食事についてしみじみ考えたことがありますか。今回のテーマはそういったことを生徒たちに振り返らせてみることであります。

日本では最近、10代、20代の若者の間で「味覚障害」の人が増えているそうです。「味覚障害」というのは、たとえば、何を食べても味を感じなかったり、甘い物なのに苦く感じたりする症状のことで、これらを予防するためには、日頃から食生活に注意することが大切だそうです。(参照：健康ネット <http://www.health-net.or.jp/index.html>) 健康、栄養、食生活などを考えることは、今回のテーマ「ファストフード」とも深い関わりがありそうです。

でも、私は日本語の教師ですよ。日本語の授業とは別に関係がないでしょう。そんなふうに思う方もいるかもしれません。

日本語の勉強だけではないこと——今回のテーマで言うと、ファストフードを題材にして、日本と中国のファストフードについて考えてみたり、自分の食生活に考えてみたりすること——を授業の中で積極的に取り上げて、それについて生徒たちは日本語を読んだり書いたり聞いたり話したりしながら学ぶこと、それこそが素質教育を目指した授業づくりだと私は考えています。

今回もファストフードをテーマにしたおもしろい授業活動がいろいろありますね。では、指導のポイントを詳しく見ていくことにしましょう。

まず、中学向けの「ファストフードを食べたことがありますか?」の活動について見てみましょう。ファストフードは、名前のとおり、「早い(ファスト)食べもの(フード)」ですが、この活動をする前に、まず教師自身で「ファストフード」とは何か、よく整理しておくといでしょう。

日本のファストフード店で食べられる料理の名前を聞いて書き取らせる活動では、発音とアクセントに注意しながら料理名を読み上げられるよう

に事前によく練習しておきましょう。この活動では、料理名を正しく書くこと、料理名を覚えることを一番の目的にせず、後の活動と結びつけやすくなるよう、日本のファストフードにはどんなものがあるのかまず知る、興味を引くことを主眼におくとよいでしょう。

もし、生徒たちの地元にも、これらの日本でなじみのファストフードの店があれば、日本や日本語の学習がもっと身近に感じられることでしょう。地元にはなくても、中国国内でも都市によっては、日本式のファストフード店がいくつもあって人気を集めているそうですから、授業の中でそうした様子も紹介してみるとよいでしょう。

次に、高校向けの「ファストフードについて考えよう」の活動についてです。中国のファストフードについて考える、説明する活動では、自分たちの地域社会にある料理や飲食店をよく思い浮かべさせて、どれがファストフードかどれがファストフードでないか、またどれが昔から中国にあったものか、どれが外国から来たものか、具体的にイメージさせながら進めるとよいでしょう。さらにそれに続く活動として、生徒たちにオリジナルのファストフードを考えさせるわけですが、生徒の想像力を膨らませるためにも、ここではぜひ教師自身がオリジナルのファストフードを創作して例示するように心がけてはどうでしょうか。たとえば、天ぷらの代わりに羊の肉を載せた「羊肉串」や、肉と野菜にチーズをたっぷり入れた「チーズ包子」など、教師の苦心作をまず披露してからグループごとに考えさせるようにすると、ああ先生はそういうアイデアをどんどん出してほしいんだということがわかりやすくなりますから、生徒の創造性をより促すことになるでしょう。

人の味覚は若いうちにさまざまな食品を食べることによって育まれていくのだそうです。多様なものに触れて生徒たちが心豊かな人間に成長していく。日本語を学ぶと同時にそんなことも目指した教室活動にしたいものですね。

有馬淳一

国際交流基金日本語国際センター専任講師